

「考え、議論する道德」の実現に向けた授業構想〈小・道德〉

特別研修員 道德 関口 亜紀子（小学校教諭）

主題名 集団での役割

内容項目C-(16)よりよい学校生活、集団生活の充実

教材名 『たのむよ、班長』

授業改善の視点

問題解決的な学習で、解決すべき問題を児童から引き出させ、登場人物の思いを明確にしてから解決策について話し合うようにする。中心発問では、自分との関わりで考えることを通して、より深く問題の本質に目を向けさせる。

主題名 広い心

内容項目B-(11)相互理解、寛容

教材名 『折れたタワー』

授業改善の視点

体験的な学習で、主人公が葛藤しながらも道德的価値に気付く場面を役割演技で再現し、「広い心」をもつことの難しさを理解させる。また、演じた後の気持ちや役割演技を見て感じたことを問い、心情と行為を振り返らせることにより、無意識の行為を意識化できるようにする。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問）

導入

1. 本時で扱う道德的価値を想起し、問題意識をもつ

○みんながグループ活動をする中で、困ったことはありますか。みんなのアンケート結果を見てみましょう。

道德的諸価値についての理解を深めるために

・アンケート結果や写真を提示し、グループ活動で困った経験について確認することで、ねらいとする道德的価値への方向付けを行う。

みんなで活動するとき、大切なことは何だろう。

1. 本時で扱う道德的価値を想起し、問題意識をもつ

○「誰だって失敗することはあるよ」というように、友達を許した経験はありますか。

道德的諸価値についての理解を深めるために

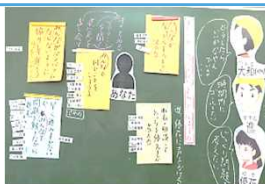
・本時の主題「広い心」について、友達との関わりから、いつも「広い心」をもつことの難しさに気付かせ、ねらいとする道德的価値への方向付けを行う。

どうしたら、広い心をもてるのだろう。

展開

2. 道德的な問題を探究する

○大和たちのグループは、何が問題となっているのでしょうか。
○大和、進、優花はどのようにしたかったのでしょうか。（問題のよりよい解決のために）



<黒板への提示>

児童が問題を見付けやすくするために、範読しながら挿絵や登場人物を黒板に提示する。

◎あなたがこのグループにいたら、どうしますか。

個人の考えを聞き、類型化して板書（思考の可視化）

- ①自分と似た考えに、ネームプレートを貼らせる。
- ②似た考えで少人数グループを作り、グループの考えのよさや、更により考えはないか話し合わせる。
- ③グループの考えを学級全体で共有させる。
- ④考えが変わったら、ネームプレートを動かさせることで、自分の考えを見直させる。

○みんなで活動する時、大切なことは何だろうか。

物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

・中心発問で引き出した考えを更に多面的・多角的に発展させるため、グループでの話し合いで、「なぜ問題なのか」「迷っていることは何か」「自分ならどのようにするか」について考えさせる。
・導入での学習課題を再び提示し、解決策を身近な問題につなげる。

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道德的価値の追求を行う

○のりおに責められたひろしは、どのような気持ちになったでしょう。【役割演技①】



<教師と児童の役割演技>

○じっとうつむいているのりおに、みんなならどのような言葉をかけますか。【役割演技②】

主人公が葛藤しながらも、道德的価値に気付く場面を役割演技で再現し、「広い心」をもつことの難しさを理解させる。

◎なぜ、のりおはひろしを許したのだろう。

物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

・役割演技をしたり見たりして、児童から出た意見を全体で共有し、多様な考えに触れさせた後、中心発問について考えさせる。
・主人公の気持ちが大きく変化する場面を中心発問とし、それを考えさせることで道德的価値の理解を深められるようにする。
・補助発問や問い返しを行うことにより、道德的行為をすることの難しさに気付かせ、自分自身との関わりで考えられるようにする。

終末

3. 本時で扱った道德的価値に対する思いや願い、考えを振り返る

○これからの生活で、みんなで活動する時にどのようなことを心がけていきますか。

自己の生き方についての考えを深めるために

・導入のアンケート結果を活用して、自らの現状を振り返らせ、さらに全体で共有することで、新たな問いや自己の課題についての考えを深めさせる。

3. 本時で扱った道德的価値に対する思いや願い、考えを振り返る

○どのようにしたら、広い心をもてるのだろう。これからどのような気持ちで過ごしますか。

自己の生き方についての考えを深めるために

・導入での学習課題を再び提示し、自分なりの考えを整理させる。
・行為についてだけの意見については、その時の気持ちを聞き、心情にも着目させる。

道徳科学習指導案

平成30年10月 第5学年 指導者 関口 亜紀子

1 主題名 広い心 内容項目B－(11) 相互理解、寛容

2 教材名 「折れたタワー」(出典:日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人との関わりの中でよりよい生活にしていくためには、相手の立場に立って考えることが大切であり、そのためには謙虚さと寛容な心が必要である。しかし、相手の立場に立って考えることは容易なことではなく、ましてや他人の過ちを許すことはなかなかできることではない。自分に対して謙虚であるからこそ、他人に対して寛容になることができることから、自分の過ちや失敗を自覚することにより、相手の立場を考え、理解し、寛容な態度をとることができると言える。そして、その謙虚さと寛容さにより、広い心でよりよい人間関係を構築できると考える。この広い心で相手と接していく中で、お互いにとって温かい人間関係ができることを考えさせ、相手の立場を考え、相手に対して寛容な心で接していこうとする心情を育てていくことが大切である。

(2) 児童の実態について

5年生となり、児童は、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方や考え方との違いを今までよりも意識し始めている。そして、考え方が近い者同士で仲間意識が強くなり、そうでない相手に対しては受け入れられないような行動や発言をすることもある。自分の考えをしっかりとるようになってきたこの時期だからこそ、謙虚な心で自分とは違った考えにも耳を傾け、相互理解に努めていけるようにしたい。また、人間には誰しも失敗をしてしまうことがあるということを知り、相手の立場を考え、寛容な心で接していこうという心情を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、児童の日常生活においてもありそうな場面が書かれている。ひろしは給食当番でマスクを忘れ、そのことでのりおに強く責められた。数日後、そののりおに一生懸命に作った作品を壊されてしまい、悔しかったが、故意ではないことから失敗を許す話である。この教材を通して、人間には誰しも失敗してしまうことがあるということや、そのような場面で寛容な心をもつことの大切さに気付かせたい。ひろしの立場になって考えると、自分が失敗したときに強い口調で許そうとしなかったのりおは、なかなか許せるものではない。しかし、数日前とはうって変わってうつむいているのりおを見ているうちに「誰にでも失敗がある」ということに気づき、相手の立場を考えて寛容な態度をとる。児童にとって日常の中で体験しそうな場面で、ひろしの心情を通して、広い心で接するための謙虚さや寛容な心などの大切さを考えさせていきたい。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

- ・本時の主題「広い心」について、具体的な友達との関わりから、いつも「広い心」をもてないことに気付かせ、ねらいとする価値への方向付けを行う。

○中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・謝っても許してもらえなかったひろしの思いを共感させながら考えさせたり、「自分がひろしだったら」と考えさせたりして、他人の過ちを許すことの難しさに気付けるようにする。
- ・のりおを許したひろしの気持ちを考えさせること【役割演技①】を通して、誰にでも過ちや失敗があることや、自分に対しての謙虚さをもって接することの大切さに気付けるようにする。
- ・「許せない」気持ちのひろしや「許す」気持ちのひろしについて、のりおとの会話【役割演技②】を通して比較・検討し、相手に対して寛容な心で接していこうという心情をもてるようにする。
- ・役割演技では、心情と行為をすり合わせることで、無意識の行為を意識化できるようにする。また、演じた後の気持ちや見ていて感じたことを聞いて、演技を振り返らせることにより、道徳的価値の理解を深められるようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・導入での学習課題を再び提示し、自分なりの考えを整理させることを通して、よりよい生き方への思いや願いを深められるようにする。
- ・行為だけの意見については、その時の気持ちを聞き、心情にも着目させる。

5 本時の展開

(1) ねらい

誰にでも失敗があることを理解した上で、相手の失敗を許そうとするひろしの思いを考えることを通して、広い心で相手の立場になって接していこうとする心情を育てる。

(2) 準備

教師：教材文、ワークシート、場面絵、のりおとひろしの名札、マスク、ほうき、場面絵

(3) 展開

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
1 学習の主題について考える。 ○「誰だって失敗することはあるよ」というように、友達を許した経験はありますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> どうしたら、広い心をもてるのだろう。 </div>	3分	・係の仕事を、友達が忘れてしまったときに謝ってくれたので許した。	●本時の主題について、日常生活から各自考えさせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。 ●具体的な友達との関わりから、いつも「広い心」をもてないことに気付かせ、学習課題を提示する。
2 教材「折れたタワー」を読んで、話し合う。 ○のりおに責められたひろしはどのような気持ちになったでしょう。 T：ひろし S：のりお 前で1回、役割演技をする。その他の児童は、役割演技を見て考える。 【役割演技①】 ○じつとつむんでいるのりおに、みんなならどのような言葉をかけますか。 S：ひろし T：のりお 前で1回役割演技をする。その後、二人が交替して役割演技をする。 (1回目でひろし役の子が、のりお役をする。) 【役割演技②】	7分 10分	・そんなに怒らなくてもいいのに。 ・忘れ物は誰だってするの。 ・忘れたのは悪いけれど、謝ったのだから許してほしい。 【許さないひろし】 ・だまってないで謝れよ。何か言えよ。(自分も言われたから) ・なんてことをするんだ。(大切なタワーを壊されたから) 【許すひろし】 ・わざとじゃないんだから、いいよ。(わざとではないことだから、仕方ない) ・気を付けてね。(誰にでもあることだから)	●教材文の最後のひろしの言葉を空欄にして、教材文を提示する。 ●板書に顔マーク提示して、二人の気持ちが視覚的に分かるようにする。 ●役割演技の際は、臨場感が出せるようにマスクやほうきを用意する。 ●マスクを忘れたひろしをのりおが責める場面で役割演技を行い、必要以上に責めるのりおに対して、納得のいかないひろしの気持ちを考えさせる。 ●ひろしにとってどんな思いがこもっているタワーなのかしっかり押さえて発問する。 ●ひろしが折れたタワーを柵の上に置きながら、うつむくのりおに声をかける場面で役割演技を行い、のりおへのひろしの気持ちを考えさせる。 ●許す演技と、許さない演技を前でさせて、その理由や気持ち、表情について全体で比較・検討させる。
◎なぜ、ひろしはのりおを許したのだろう。 【問い返し(◇)】 ◇許したひろしをどのように思っていますか。 ◇嫌な思いをしたのに、相手を許せますか。	15分	・のりおが落ち込んでいて、かわいそうだから。 ・わざとやったわけではないから。 ・自分が責められて嫌だったから、人にはしたくない。 ・怒っても、タワーは元に戻らないから。	●全体の交流では、児童同士で質問をするように促し、意見交流しながら、多様な考えをもてるようにする。 ●ワークシートに自分の考えを記入させて、それぞれの考えをもたせた後、全体で意見を交流させる。 ●問い返しをして、他人の過ちを許すことの難しさに気付かせる。
3 本時を振り返り、自分なりの考えを整理する。 ○どのようにしたら、広い心をもてるのだろう。これからどのような気持ちで過ごしますか。	10分	・相手の気持ちになって考えて、相手の失敗を許す気持ちをもつようになる。 ・自分にも同じようなことがあるという考え方をするようにする。	●導入での学習課題を再び提示し、自分なりの考えを整理させる。 ●行為についてだけの意見については、その時の気持ちを聞き、心情にも着目させる。

(4) 評価の視点

○ひろしやのりおの気持ちになって役割演技をすることで、広い心について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。

○ひろしがのりおを許した理由を考えることで、広い心について、自分自身との関わりの中で深めているか。

指導例：主題名 広い心 B-(11)相互理解、寛容

教材名 『折れたタワー』（日本文教出版）第5学年

ねらい：誰にでも失敗があることを理解した上で、相手の失敗を許そうとするひろしの思いを
考えるを通して、広い心で相手の立場になって接していこうとする心情を育てる。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し）

指導のポイント

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○「誰だって失敗することはあるよ」というように、友達を許した経験
はありますか。

S：係の仕事を友達が忘れてしまったときに、謝ってくれたので許した。

T：みんな心が広いですね。でも、いつもそのような広い心で相手を許
せていますか。

S：できていないな・・・。

どうしたら、広い心をもてるのだろう。

問題意識

○本時の主題「広い心」について、
具体的な友達との関わりから、
いつも「広い心」をもてないこ
とに気付かせ、ねらいとする道
徳的価値への方向付けを行う。

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○のりおに責められたひろしは、どのような気持ちになったでしょう。

【役割演技1】

T：（役割演技を見ていた児童に向けて）
○○さんはどんな様子に見えましたか。

S：悲しそうだった。

T：（役割演技をした児童に向けて）
悲しそうに見えたけれど、どんな気持ち
になりましたか。

S：そんなに怒らなくてもいいのにな。

T：（役割演技を見ていた児童に向けて）

みんなは見ていてどう感じましたか。

S：忘れ物は誰だってするの、ひどいなあ。



<教師と児童の役割演技1>

○じつとうつむいているのりおに、みんなならどのような言葉をかけま
すか。

【役割演技2】

T：（役割演技を見ていた児童に向けて）
今、△△さんは何と言っていましたか。

S：だまってないで謝れよ。

T：（役割演技をした児童に向けて）
どうして「だまってないで謝れよ」と言
ったのですか。

S：自分も責められたから。

T：（役割演技を見ていた児童に向けて）

みんなは見ていてどう感じましたか。

S：わざとじゃないし、責めなくてもいいと思う。

S：責める気持ちも責めなくてもいいという気持ちも両方とも分かるなあ。



<教師と児童の役割演技2>

◎なぜ、のりおはひろしを許したのだろう。

S：のりおが落ち込んでいて、かわいそうだから。

◇かわいそうなだけですか。

S：自分が責められて嫌な思いをしたから、のりお
にはさせたくない。

◇責められて嫌な思いをしたのに、相手を許せますか。

S：怒っても、タワーは元に戻らないから。



<意見交流の様子>

体験的な活動

○主人公が葛藤しながらも、道徳
的価値に気付く場面を役割演技
で再現し、「広い心」をもつこ
との難しさを理解させる。
○役割演技を行う際は、臨場感
が出せるように具体物を用意し、
児童が感情を込めて話せるよ
うにする。
○役割演技後に以下のように問い、
心情と行為をすり合わせるこ
とで無意識の行為を意識化でき
るようにする。
・「（役割演技を見て）どんな様
子に見えたか、どう感じたか」
・「（役割演技をして）どう感じ
たか、なぜそう言った（した）
のか」

中心発問

○役割演技をしたり見たりして、
児童から出た意見を全体で共有
し、多様な考えに触れさせた後、
中心発問について考えさせる。
○主人公の気持ちが大きく変化す
る場面を中心発問とし、それを
考えさせることで道徳的価値の
理解を深められるようにする。
○補助発問や問い返しを行うこ
とにより、道徳的行為をすること
の難しさに気付かせ、自分自身
との関わりで考えられるよ
うにする。

振り返り

○導入での学習課題を再び提示し、
自分なりの考えを整理させる。
○行為についてだけの意見につ
いては、その時の気持ちを聞き、
心情にも着目させる。

展開

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○どのようにしたら、広い心をもてるのだろう。これからどのような気持
ちで過ごしますか。

S：相手の気持ちになって考えて、相手の失敗を許す気持ちをもつよ
うにする。

S：自分にも同じようなことがあるという考え方をするようにする。

評価の視点

- ・ひろしやのりおの気持ちになって役割演技をすることで、広い心について、多面的・多角的な
見方へと発展しているか。
- ・ひろしがのりおを許した理由を考えることで、広い心について、自分自身との関わりの中で深
めているか。